

不登校の子どもの 育ちを支える

神戸大学大学院 鳥居 深雪

本日の概要

目標

「不登校」等の状態の背景にある、子どもたちのしんどさについて考え、どのような支援を行うべきか検討する。



事例を通して考える



合理的配慮とアドボケート



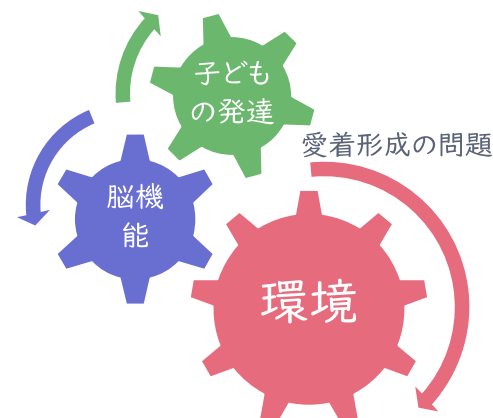
多様な児童生徒への支援



まとめ

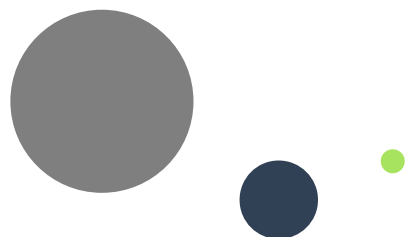
用語	概要
合理的配慮 障害者差別解消法改正	障害のある人からバリアを取り除くために配慮を求める意思の表明があった場合、負担が重すぎない範囲で対応する
障害のある子供の教育支援の手引	R3年6月「教育支援資料」の改訂
医療的ケア児支援法	R3年6月18日公布、R3年9月18日 施行：在籍する医療的ケア児に対し適切な支援を行う責務
STEAM教育	Science, Technology, Engineering, Art and Mathematics
Society 5.0	サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）
遠隔教育	同時双方向型（双方向（同期型）、別空間） オンデマンド型（一方向（非同期型）、別空間）
Neurodiversity	神経学的多様性、脳の多様性

児童生徒の包括的理解



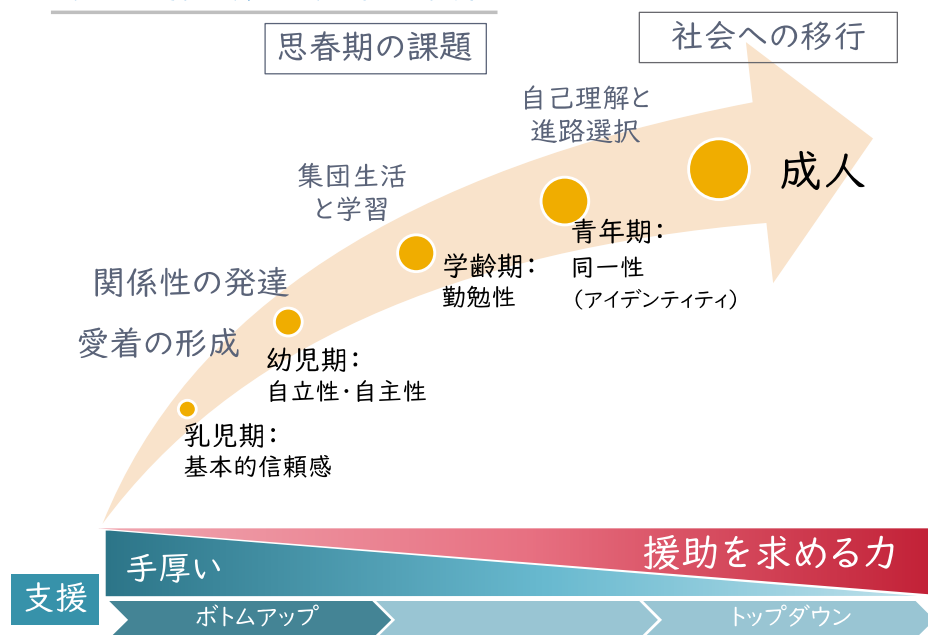
多様な要因を探る

- **子どもの発達**: 発達のみならず、育ちの過程（相談歴・教育歴）
 - 脳機能: 実行機能、注意機能、学習、社会性
- **環境との関係**: 学級集団の質（いじめ被害）、担任との関係、家庭環境（親子関係、貧困、虐待等）

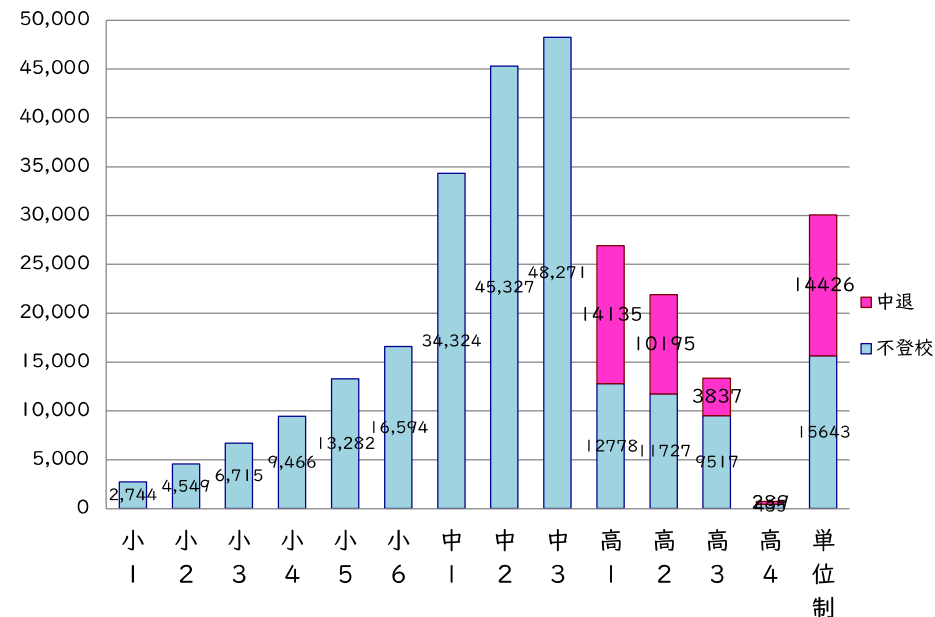


合理的配慮とアドボケート

各発達段階の課題と支援



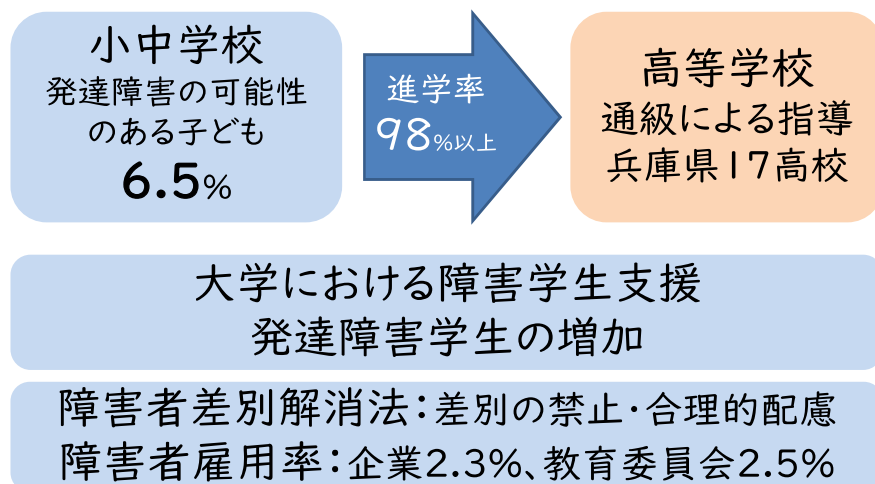
学年別不登校児童生徒数 (R1)



思春期の発達課題

- 思春期特有の課題
 - タテマエとホンネの二重構造、仲間関係
 - 思春期の混乱 理想の自己と現実のギャップ
 - 自分の特性理解 セルフトイグマの問題
- 失敗経験→自己肯定感の低下→二次的な問題
- 小6から中1で不登校は急増
- 高学年～抽象的な学習、メタ認知が必要になる
- 中学校 授業が理解できない→不適応 (LD、境界域知能)

義務教育終了後の特別支援

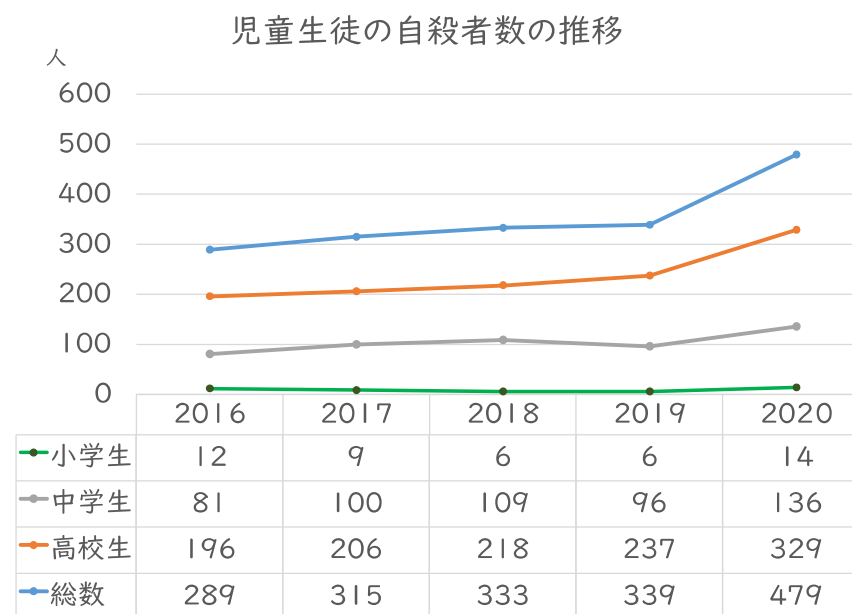


「助けて」と言えない

- 大人の「ひきこもり」 *Hikikomori*
- 援助を拒否する男性
- 餓死する社会的弱者（高齢者、貧困世帯）
- 2019年まで減少していた自殺者の増加（コロナ禍による？特に女性）
- 児童生徒の自殺者数は増加
- 援助を求めることは恥、と思う人たち（頑張ることが美德？）

大人（教師）が介入できるのは
高校まで

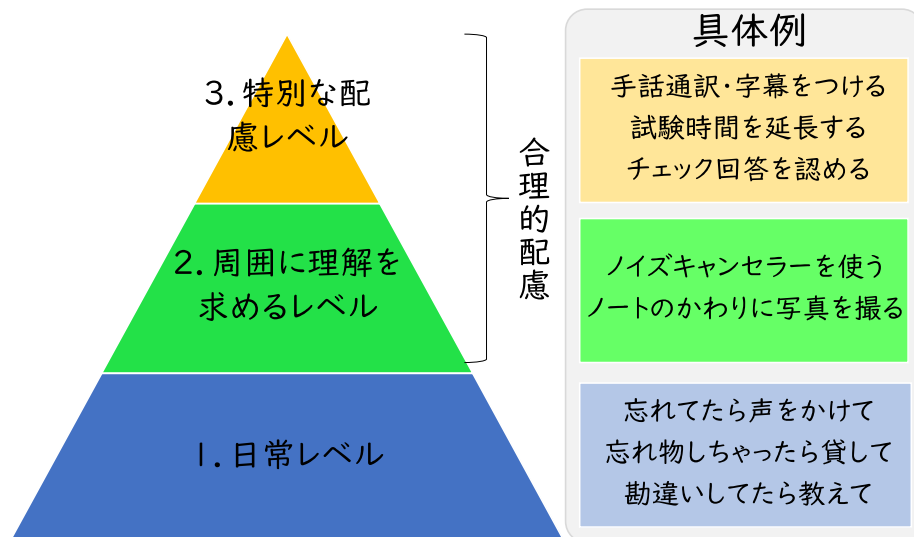
高校卒業後は、
自分から求めなければ、
何の援助も受けられない



サポートを受けるのは恥ずかしい？
自分で頑張る人が立派な人？

いいえ
あなたが、
よりよい成果を上げるために必要
自分の限界がわかる人が立派な人

サポートのレベル



サポートや相談が必要な時

自分にとって苦痛が大きい

がまんするだけで精いっぱい

かなり頑張ればやれるけど持続は難しい

少しのサポートがあれば、スムーズにやれる

どうしてなのかわからないけれどうまくいかない

「なりたい自分」になるため

障害者差別解消法改正 2021/6公布

	不当な差別的扱い	障害者への合理的配慮
国の行政機関 地方公共団体等	<u>禁止</u>	<u>法的義務</u>
民間事業者	<u>禁止</u>	<u>法的義務</u>

合理的配慮

障害のある人からバリアを取り除くために配慮を求める意思の表明があった場合、負担が重すぎない範囲で対応する

合理的配慮の例

- 感覚過敏に対して: 音の刺激を減らすために椅子や机の脚にカバーをつける、特殊なメガネの使用を認める
- 実行機能障害に対して: スケジュールの提示、To Do Listの作成、ワークシートの使用、ワーキングメモリの補助(外部記憶の活用)
- 読み書きの障害に対して: タブレットの使用、Daisy教科書またはデジタル教科書、読みやすいフォントの使用
- 言語理解の困難に対して: ゆっくりはっきりと話す

わかりやすい日本語

- 不器用さに対して: 机といすの高さの調節、OTからの助言の活用

紙の色によって 見え方が 変わる 人も
いる。黄色い 紙や グレーの 紙の方が
見やすい 人も いる。

フォント（文字のデザイン）によっても違う

読みにくいフォント（明朝体）

読みにくいフォント（教科書体）

読みやすいフォント（丸ゴシック体）

読みやすいフォント（ゴシック体）

読みやすいフォント（メイリオ体）

読みやすいフォント（UDデジタル教科書体）

感覚の問題に対して

- 聴覚過敏 イヤーマフ, ノイズキャンセリング, デジタル耳栓, 静かな環境, 座席の配慮
- 視覚過敏 視線を嫌がる場合もある。無理に目を合わせせない。偏光レンズや遮光レンズなどの使用で改善する場合もある
- 色覚の問題 わかりやすい色の使い方
- 味覚, 嗅覚, 皮膚感覚 等

セルフアドボカシー

可能性を最大限に発揮するために必要な力

自分の困難がわかる

自分に必要なサポートがわかる

必要な場面でサポートを求める

サポートが必要な理由を説明する

アドボケートスキルはアドボカシーのスキル

多様な児童生徒
への支援

Nothing about us without us!

自己決定権

セルフアドボカシー：自分の権利を守る力

自己理解

- ・ 自分にできることと困難なこと

援助を求める力
(主張性を含む)

- ・ 必要な場面で援助を求めることは恥ずかしいことではなく、よりよい成果を上げるために大事なこと

幼児期から育てたい

多様な子ども

- ・ 人種・民族, 宗教など
- ・ 家庭環境 (家族, 経済力, 文化的背景)
- ・ 性 (LGBTQ)
- ・ 年齢 (発達段階)
- ・ 特別なニーズのある子ども

特別なニーズ

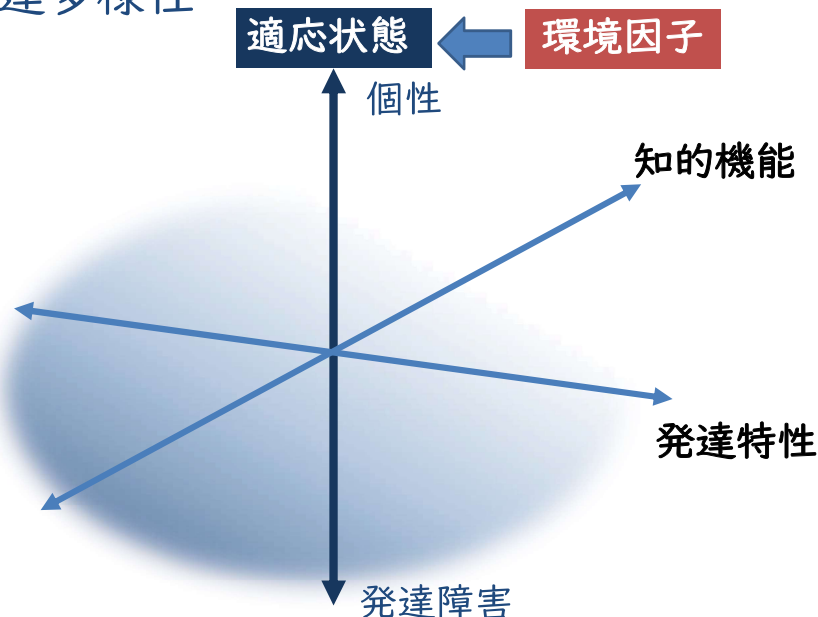
- 発達多様性 (Neurodiversity: 脳の多様性)
- 障害
- 貧困、虐待・ヤングケアラー等の福祉的問題
- 外国籍 (母国語の違い)
- 不登校などの不適応
- 被災や被害等の後の心理的援助
- 医療的ケア児

発達多様性

- 適応状態がよい場合「障害」という必要がない
 - 高機能 (知的障害がない) 発達障害で専門職についている人; 医師, 弁護士, 研究者 等
 - 知的障害があるが就労して円満に地域生活を送っている人

置かれている環境によって異なる
当事者の自己理解と進路選択が重要

発達多様性



知的障害

知的発達症/知的発達障害 (Intellectual Disabilities: ID) (DSM-5)

発達期に発症し知的機能と適応機能両面の欠陥を含む障害

- 1 知的機能の欠陥 (IQ70 ±5以下)
- 2 適応機能の欠陥 (日常生活上の一つ以上の活動に限界がある)

IQだけではなく、概念、社会性、実生活、各側面に発達の遅れ
各側面における困難さにより、軽度、中度、重度、最重度のレベルを判断

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder: ASD)

自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 (DSM-5)

1 社会的コミュニケーションと対人的相互反応の障害

2 行動, 興味, および活動の限定されたパターンのな
繰り返し: 変化への弱さ, 感覚の問題 (過敏, 鈍麻)

- 人によって困難のあらわれ方は多様
- 症状は成長してから明らかになることもある
- 不適応の状態がある

学習障害 (Learning Disability: LD) (文部科学省)

限局性学習症 (Specific Learning Disorder: SLD) (DSM-5)

全般的な知的発達に遅れがないにもかかわらず学習が困難

1 読むことの 障害

2 書くことの 障害

3 算数の 障害

人によって困難のあらわれ方は異なります

ADHD : Attention-Deficit/ Hyperactivity Disorder

注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害 (DSM-5)

1 多動性と衝動性

2 不注意

3つのタイプ

- 不注意優勢型
- 多動性-衝動性優勢型
- 混合型

人によって困難のあらわれ方は異なります

発達性協調運動症

(Developmental Coordination Disorder: DCD) (DSM-5)

1 不器用: 手先がうまく使えない

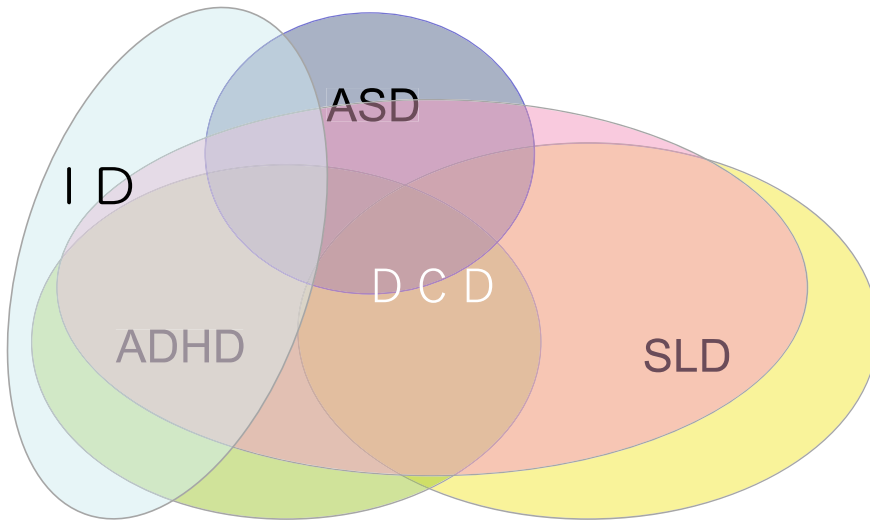
2 極端に 運動が 苦手



鉄棒やなわとびができない、習字が汚い、楽器の演奏が苦手 等

人によって困難のあらわれ方は異なります

発達障害の併存



子どもの貧困対策

目的: 全ての子どもたちが夢や希望を持てる社会
子育てや貧困を家庭のみの責任とせず、子供を
第一に考えた支援を包括的・早期に実施

- ① 親の妊娠・出産期から子供の社会的自立までの切れ目のない支援 子供のライフステージに応じて早期の課題把握
- ② 支援が届かない又は届きにくい子供・家庭への配慮 声を上げられない子供や家庭の早期発見と支援の多様化
- ③ 地方公共団体による取組の充実 計画策定や取組の充実、市町村等が保有する情報の活用促進

境界域知能

(Borderline Intelligence Function: BIF)

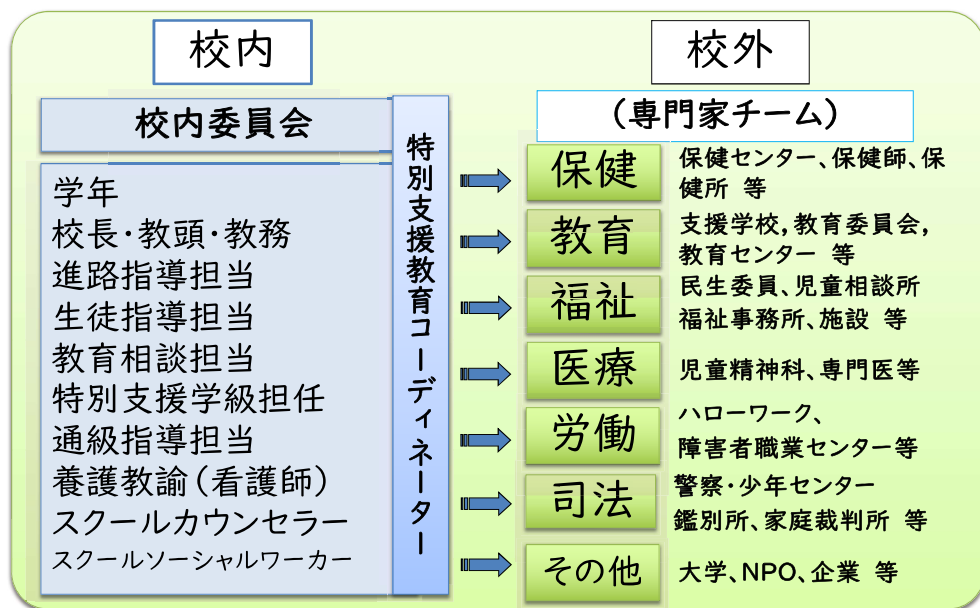
- IQ70(75)～85の知的レベルの子どもたちは、知的障害にはならないが、学習上の困難さを持っている
- にもかかわらず、支援の対象とされない(福祉制度の外にいる)
- 自尊感情が低下
- 養育環境が適切でないと、非行事例として問題化する

児童虐待

1. 身体的虐待
 2. 心理的虐待
 3. 性的虐待
 4. ネグレクト
- (教育虐待, 経済的虐待)

子どもの成長発達に深刻な影響を及ぼす
過剰な介入, 叱責よりも安定した関係を築き
経験することが重要

学校内外の連携

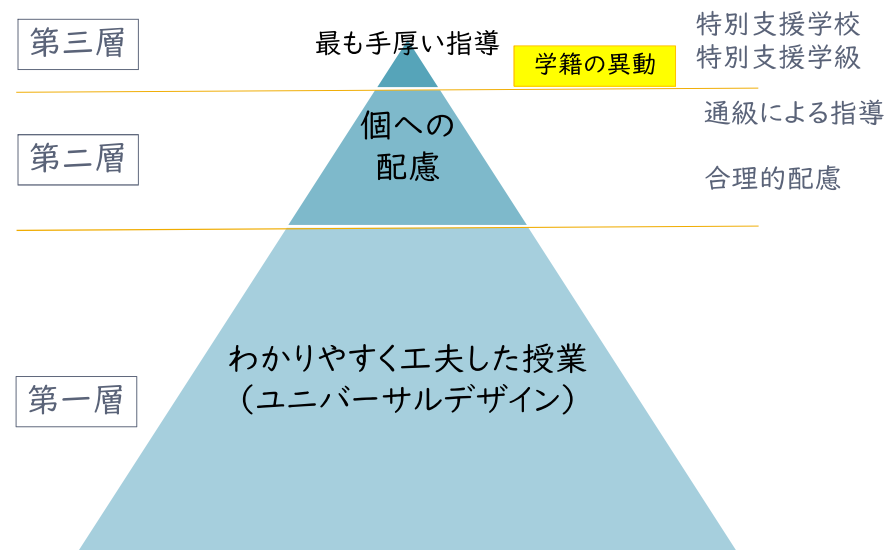


UDは
クラスの生徒全員のための
通常の授業の工夫

特別なニーズがある子どもには
個別の配慮や特別な場が必要

RTIと三階層モデル

指導に対する効果によって通常の教育から手厚い指導までニーズを判断



多様な学びの方法

アコモデーション

=内容を変更せず方法や形式を変更

- 課題・教示の条件, 要求水準の調整
 - 読みの障害 読みあげ、マルチセンサリーアプローチ、読みやすいフォント・色
 - 算数障害 電卓の使用
- 課題の量の調整, 時間延長
- ICTの活用: タブレットやPCの使用, デジタル教科書, DAISY (ディジー) 教科書 等
- 見通しが持てるように情報をわかりやすくする (ワークシートの使用)
- 環境調整 座席の位置等

多様な学びの内容

モディフィケーション

＝授業や課題の内容そのものを変更

- 実態に応じたアカデミックスキル
 - 基礎学力プログラム(四則計算, 読み書き)
 - 授業予習プログラム(事前に構えができることで授業の理解が容易になる)
 - 高等教育準備プログラム(学修のプランニング)
- アドボカシースキル
 - 福祉制度を利用するレベル
 - 自力で頑張るレベル(必要な配慮を自分で求める)
- 年齢に応じたソーシャルスキル(小学校モデルだけではない)



すべての子どもの
多様性を尊重し
ニーズに応じた教育を
保障する

環境との関係で状態像は多様
「援助」はより良い成果のため
セルフアドボカシーが重要



最終目標は, その人らしい成長・人生